

audfly スピーカー設置・設定に関してご注意頂く点

- 1) リスナーの方の顔に直接音が当たるように、スピーカーの向きを注意深く設定してください。非常に指向性が強いために、音の方向が少しずれるだけでも、聞こえ方に大きな差がでます。スピーカー角度を自在に調整できる取付金具をご使用になることをお勧めします。
- 2) 反射音の拡散によって超指向性スピーカーの特徴が損なわれる場合があります。反射音が顕著な場合は、スピーカーからの音が直接当たる場所（指向性が強いので場所の特定が容易です）に吸音材を置く、音量を下げ、反射音が暗騒音より低くなるように設定する等の対応をとって頂きますようお願いいたします。音量を決定する際は、リスナーの頭に直接音が当たっている状態で音量の調整を行って下さい。反射音を聞きながら音量の設定をされることが無いようにご注意下さい。
- 3) スピーカーとリスナーの間に障害物（ビニールや紙なども含め）があると、リスナーまで音が届かなくなります。スピーカーからの音の通り道には物が無い状態にして下さい。
- 4) 大音量を出すスピーカーではありませんので、騒音状態の激しい場所に設置される場合には、事前調査を行って下さい。
- 5) 専用アンプには音量調整機能がございますが、さらに音量・音質の調整を行う必要がある場合は、音源プレイヤーの音量コントロールもしくは、プリアンプ、ミキサーアンプをご使用頂きますようお願いいたします。
- 6) 音量を一定以上上げると出力が自動的にカットされます。その場合、音量を下げてください。
- 7) アンプを 24 時間以上連続して通電した状態にしないようにしてください。24 時間のうち、一定時間（2 時間以上程度）は、アンプの通電状態が off の状態になるようにして下さい。
- 8) 出荷の際にスピーカーに取り付けてあるボルト、もしくは同梱してあるネジ以上の長さ（8mm以上）のネジ・ボルトは故障の原因となりますので、ご使用にならないようにお気をつけください。
- 9) アンプの通気口周辺の空間は必ず確保して下さい。通気口を塞ぎアンプ内の熱量が一定以上高まると、アンプが OFF の状態になります。その場合電源を抜いて、アンプを冷まし、通気口周辺の空間を確保してから再稼動して下さい。
- 10) アンプからスピーカーに送信される高調波は外部からの干渉に弱く、ノイズ発生もしくはスピーカー故障の原因ともなります。アンプとスピーカーの間は長さ 25m以内、Canare4S6 程度のスピーカーケーブルをご使用下さい。